

探究講座⑤「探究活動での質的研究・量的研究」

1. 本時の目標

- ・定性的データ（質的）と定量的データ（量的）の定義とそれぞれの特徴（メリット・デメリット）を理解する。
- ・先行研究や実際の調査事例（インタビュー調査等）を通じて、データがどのように分析され、仮説の検証に活用されるかを学ぶ。
- ・具体的な探究テーマに対し、定性・定量の両面から適切な調査・検証方法を立案できる力を養う。

2. 本講座で生徒に身につけて欲しいコンピテンシー

生徒は、客観的比較を可能とする定量データと、数値化できない過程や原因を深く探る定性データの定義・特徴を正しく理解し、適切に使い分ける力を身につける。また、インタビュー等の結果を「主体性」などの学術的視点で分析し、先行研究と照らし合わせて仮説を再設定する論理的思考力を養う。さらに、特定の探究テーマに対し、定性・定量双方の観点を組み合わせた検証方法をグループで立案し、多角的なアプローチを通じて問いを深化させる実践的なデータ活用能力と協働的な探究態度の習得を目指す。

3. パフォーマンス課題と評価手法(ルーブリック)

探究テーマ「英語教育におけるディズニー映画の有用可能性」に対し、定性的・定量的な観点をそれぞれ1つずつ用いた具体的な調査・検証方法をグループで提案する。

3	2	1	0
定性・定量双方の観点で具体的で効果的な調査・検証方法を立案できている。	定性・定量双方の観点で具体的な調査・検証方法を立案できている。	調査・検証方法の具体性が低い。	未提出

4. 本時の展開

探究講座⑤「探究活動での質的研究・量的研究」 1 時間目

時間	学習の内容	教材・留意点
0	出席番号順に 5 人 1 グループを編成（1 班：1～5 番...）。 話し合いを促進するため、2 列を使い近接して座るよう指示。班の間はイス 1 つ分空け、他班の声を遮断する。 出欠確認 授業者登壇（K. S 先生）	
10	定性・定量の定義と特徴 ・ 定量的（量的）調査：数値データを用い、客観的な比較が可能。e-Stat（政府統計）や SSDSE（教育用標準データセット）等の公表データや、自ら収集する数値データを扱う。 ・ 定性的（質的）調査：数値を用いず、数値では読み取れない過程や原因を深く探る。過疎化の原因調査や細胞の形態変化などが例。 ・ 数値の意味を理解せずに行う考察の危険性について触れる	スライド 公的統計サイトの画面を例示する。

20	定性的アプローチの実践例（卒業生研究の解説） ・ RQ（リサーチクエスション）：授業中の教師の雑談にはどんな効果があるのか？。 ・ 調査手法：教師4名へのインタビュー。質問項目として「雑談の意図」「教育効果」「雑談の言い換え」等を提示。 ・ 分析の視点：語られた内容を「主体性」や「エージェンシー」（OECDの視点等）の観点で分類。科目的な視点とコミュニケーション能力的な視点の違いを浮き彫りにする。 ・ 深化のプロセス：先行研究と照らし合わせ、「繋げる雑談」から「余白の雑談」へと仮説を再設定し、再検証する流れを学ぶ。	実際のインタビュー回答（逐語録の一部）を提示。
30	調査・検証方法の立案（ワーク） ・ 共通テーマ：「英語教育におけるディズニー映画の有用可能性」。 ・ ミッション：上記テーマに対し、定性・定量双方の観点から調査方法を各1つずつ立案する。 定性的手法の例：映画のセリフの内容・語彙を分析する。 定量的手法の例：映画視聴の前後で英単語テストを実施し、スコアを比較する。 ・ グループ内で「より深い探究にするためにはどう組み合わせるか」を協議する	
45	まとめと振り返り ・ 定性・定量の適切な組み合わせが探究を深める鍵であることを強調する ・ Google フォームへの回答。	Google Form アンケート

参考：

e-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>)

SSDSE (<https://www.nstac.go.jp/>)